

作 成 後 記

2007年（平成19年）6月に第1回の検討会を開催してから、18名のメンバーは、前報告書をどのような視点から見直すかの議論に最も時間を費やしてきました。

2年間、週1回のペースで議論を重ね、その中で、多くの有識者の方や大学の先生方、そして、若い学生のみなさんなどと意見交換をさせていただき、最新の知見や率直な意見をいただきながら、報告書の検討を進めてきました。

その結果、暮らし、希望、幸福、行動、世代などのキーワードや希望の輪、地域の幸福度（QOC）などの新たな考え方を得ることができました。

また、知事からも、様々な助言を受けました。

福井県に関心を持っていただき、また、我々の検討会に対して、ご助言・ご指導をいただいたすべての皆様方にお礼申し上げます。

私たち、福井県庁の中堅・若手職員の18名は、この福井が将来どのような姿になるのか、また、私たち自身や家族がどのように暮らしているのかを思い描きながら、検討を進めてきました。検討の途中では、2030年の福井に対する期待と不安が交錯したこともありました。

2年間の様々な議論を経て、私たちは、希望と幸福のつながる福井の姿を多くの方と共有したいという想いで、この報告書を完成させました。

検討会のメンバーにとっては、普段の仕事では手にしないような書籍を読み、様々な分野の方々と直接自由に忌憚のない意見を交換するという得がたい経験もできました。

最後に、ご協力をいただきました皆様方にあらためてお礼を申し上げますとともに、記載内容につきましては私どもの責に帰すものであることを明記しておきたいと思います。

